

令和元年度 第3回 竹原市地域創生推進会議 議事録

日時 令和元年12月26日(木)

場所 竹原市役所3階 第1・2委員会室

事務局	<p>おはようございます。定刻より少し早いですが、今日出席をされる予定の皆さまお集まりいただきましたのでおります委員のみなさまお揃いになりましたので、はじめたいと思います。本日は年末のお忙しい中また雨の中ご出席いただきましてありがとうございます。ただいまから令和元年度第3回目となります竹原市地方創生推進会議を開催いたします。</p> <p>どうぞよろしくお願いいいたします。</p>
市長	<p>(挨拶)</p>
事務局	<p>それでは本日の出席委員さんの状況をご連絡させていただこうと思います。本日は、7名の委員が所用等につき欠席となっております。</p> <p>本日はこのメンバーで色々協議検討をして頂ければと思います。どうぞよろしくお願いいいたします。</p> <p>前回の会議で新しい委員の方をご紹介させていただきました。あらためて本日、一言ご挨拶をいただきたいと思います。どうぞよろしくお願いいいたします。</p>
委員	<p>(新任委員挨拶)</p>
事務局	<p>ありがとうございました。それでは議事に入りたいと思います。</p> <p>これからは会長のほうに進行のほうをお任せしたいと思います。どうぞよろしくお願いいいたします。</p>
会長	<p>皆さんおはようございます。前回の時よりかなり肉がついてまいりました。本日は特にそういった基本目標に向かって取組が適切であるかどうか、ほかに考えられないか、さらにその目標を評価するための数値、それからKPI、基本的な基礎的な目標としてどういったものが適切であるかどうかといった意見から議論をしていただきたいと思います。</p> <p>それではお手元の次第にそって、2つの議題があるのですが、人口ビジョンの素案、それから次期総合戦略の素案、それぞれ関連しておりますので通して事務局から説明していただいた後、皆さまのご意見をおうかがいしたいと思います。それではよろしくお願いいいたします。</p>
事務局	<p>それでは説明に入らせていただきます。お手元の資料を確認させて下さい。まず、会議資料、そして配席図、論点整理資料、そして一枚ものの骨子案からの変更についてというペーパー、そして資料1資料2と続きます。不足等ございませんでしょうか。では説明に入らせていただきます。</p>

A4の資料骨子案からの変更について説明させていただきます。

前回の会議で説明した骨子案から、視点の変更や削除は行わず、施策の方向性を一部分統合いたしました。具体的には、骨子案で示した施策の方向性のうち、「仕事づくり」の「中小企業の振興」と「農林水産業の振興」を「地域産業の振興」へ、「移住定住の促進」の「快適で安心な住環境の形成」と「コンパクトな市街地とネットワークの形成」を「暮らしやすい環境の創出」へと、「地域力の強化」の「地域を支え活躍する人材の育成」と「協働のまちづくりの推進」を「地域を支え活躍する人材の育成・環境づくり」へ統合しました。

それでは資料1をご覧ください。

竹原市人口ビジョンの素案です。この人口ビジョンにつきましては前回の外部会議で示しました人口の現状をより充実させたものになります。

1ページをご覧ください。

こちらの人口ビジョンは本市における人口の現状を分析するとともに、今後目指すべき将来の方向と人口の将来展望を提示するものです。この度の改定では、最新の統計データをもとに人口の現状を改めて分析し、平成31年3月に策定した第6次竹原市総合計画の基本構想に示した「現状趨勢推計」と「想定人口」を改めて人口の将来展望として掲げ、まち・ひと・しごと創生の実現に向けた効果的な施策を企画立案するうえでの基礎となるものと位置付けます。

2ページ以降の人口の現状分析につきましては総人口、社会動態、自然動態、少子高齢化の順に記載しております。

前回会議資料の人口現状から追記した主なデータについて説明します。

10ページをご覧ください。

10～17ページ社会動態についてより充実させたデータを記載しております。

20ページへ、女性人口の推移を記載しました。

23ページ以降は少子高齢化の進展について記載しています。

26ページを以降は、人口の将来展望を示しています。

人口の現状からみえた4つの課題、総人口の減少、社会増減、社会減の増加、自然減の増加、少子高齢化の進展という部分については前回の会議の時にお示ししております。

次のページをご覧ください。

こちらの「目指すべき将来の方向性」については、既に説明をさせていただいておりますので、割愛いたします。

3番目の将来展望については、追記したデータです。

ここでは第6次竹原市総合計画の目標である「想定人口」を掲げ、改めて総合計画と総合戦略で人口の将来展望を共有することを示しています。

29ページをご覧ください。

②番「現状趨勢推計」は、新たな施策の取組がない場合はこの人口推移が見込まれる、というものです。よって、「現状趨勢推計」から「想定人口（目標人口推計）」に人口を押し上げることが将来的な目標になります。

続きまして資料2をご覧ください。

「第2期竹原市まち・ひと・しごと創生総合戦略（以下「第2期総合戦略」）」の素案です。

策定の背景、総合戦略の位置付け、計画期間については、前回の会議で説明していますので割愛します。

2ページ目をご覧ください。

取組体制とPDCAの確立です。こちらについても前回の会議で説明しましたので割愛します。

次のページをご覧ください。

第2期総合戦略の進行管理と効果検証については、PDCAサイクルの考え方に基づいて行います。

第1期総合戦略の達成状況につきまして、こちらは1回目の外部会議で説明した達成状況を記載しています。

4番の目標の設定です。

まず、総合戦略は人口減少対策なので、前回の会議でご説明させていただいたように全体の目標を設定し、その全体の目標へ寄与する基本的目標の設定をおこないます。

2番目の基本目標の設定です。こちらにも竹原市人口ビジョンの課題から見える3つの社会減の緩和、自然減の緩和、賑わいと活力の創出という課題から基本目標を導いております。前回の会議で説明しております。

次のページをご覧ください。

戦略の体系図に沿って説明します。

まず基本目標に沿って数値目標を示し、基本目標ごとに「基本的方向」として、竹原市人口ビジョンから見える課題や、基本目標ごとの大きな取組の方向の考え方を示しております。

基本目標1は、社会減の緩和を目的とし、雇用の創出や移住定住の促進に取り組みます。

6ページをご覧ください。

主な施策や取組について説明します。

まず「仕事づくり」につきまして、「魅力ある雇用の確保」に取り組みま

す。カッコ書きの部分については、総合計画との関連を示しています。

「魅力ある雇用の確保」では、市内への企業誘致活動や、就職ガイダンスなどを実施し、取り組みます。その下に各施策の方向性ごとの「重要業績評価指標（KPI）」を掲げています。

次のページをご覧ください。

「創業の促進」です。

ここでは、創業セミナーの開催や創業意欲の醸成、空き店舗の改修支援などを実施します。

8ページをご覧ください。

「地域産業の振興」です。低金利の融資などの支援、農地の流動化や集積化による遊休農地の活用、新たな特産品の開発販売などに取り組みます。

10ページをご覧ください。

「移住定住の促進」の1つ目の項目、「まちへの誇りと愛着の醸成」です。

こちらでは、若者の地域課題の解決と魅力づくりに参加する機会の充実、市長と高校生を中心とした若い世代の意見交換などを実施していきます。

次のページをご覧ください。「U・I・Jターンの促進」です。

この項目では、県主催のPRイベントへの参加、そして移住を検討する方に対して空き家改修の補助などを実施していきます。

12ページをご覧ください。

「暮らしやすい環境の創出」です。ここでは商業施設などの日常生活に必要な生活利便施設が充実した利便性の高い拠点づくりや、市民や観光客が利用しやすい持続可能な公共交通ネットワーク体系の構築などを実施していきます。

15ページをご覧ください。

続きまして「自然減の緩和」を目標とする項目で、基本目標を、「若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる」としています。

基本目標の数値目標は、「出生率」を掲げています。

こちらの基本的方向として、出生数が減少傾向で、自然減の緩和が拡大しており、離婚率の上昇や若年女性人口の減少により、さらに少子化を進行させています。このため、出会い、結婚への支援や、安心して子どもを産み育てられるような出生数の増加につながるような少子化対策の取り組みを展開していきます。

16ページをご覧ください。

まず、「出会い・結婚のサポート」です。こちらでは近隣市町と連携した出会いの場の創出、結婚を支援するサポーター制度の設置などを実施していきます。

基本目標 1 と同様、各取り組みの下段に施策ごとの KPI を掲げます。
次のページをご覧ください。

「妊娠・出産期への切れ目のない支援」です。こちらでは不妊治療、不妊治療に対する助成や、たけはらっ子ネウボラ、子育て世代包括支援センターを中心に妊産婦及び新生児並びにその保護者に包括的に支援を行っていきます。

次のページをご覧ください。

こちらでは、保育士の確保やファミリーサポートセンター、地域子育てセンターなどによる子育て支援の充実、そして子どもや母親への保健指導や乳幼児健診など子どもと母親への健康増進などを実施していきます。

次のページをご覧ください。

基本目標 3、「賑わいと活力の創出」についての項目です。年齢や性別に関わらず、多様な人々が元気な町を作る竹原の魅力個性を生かして交流を拡大するという部分です。数値目標は施策の範囲が多岐にわたるので、複数項目掲げております。

基本目標の数値目標項目は、「平均自立期間」、「給与収入のある女性人数及び 65 歳以上の市民の数」、「地域交流センターの利用人数」です。

基本目標 3 の基本的方向は、本市が国・県・近隣市よりも早いペースで少子高齢化が進展していること、その中で、社会減の緩和、自然減の緩和に取り組むだけではなく、同時にまちの賑わい活力を維持向上し、まちの持続可能性を高めることです。

このため、地域社会や地域経済を考える支える人々を増やし活躍しやすい環境づくりを進めるとともに町の魅力の向上をはかり市内外の力を生かして、賑わいと活力を向上し町の持続可能性を高めていきます。

次のページをご覧ください。

まず、「地域力の強化」です。まずは「健康まちづくりの推進」という項目です。こちらではがん検診の受診率向上へむけた取組や、自主的な介護予防の支援、生きがいを持って活動・活躍するための居場所づくりなどを行っていきます。基本目標 1・2 と同様に、取組ごとに KPI を掲げています。

次のページをご覧ください。

「多様な人々の活躍促進」です。

こちらでは、女性活躍推進のため企業などを対象とした講習会を実施し、竹原市シルバー人材センターと連携した高齢者の積極的な社会参画の場の創出などを行い、多様な人々が活躍できる環境づくりを目指します。

26 ページをご覧ください。

「地域を支え活躍できる人材の育成・環境づくり」です。

こちらでは、地域と連携協力しながら「地域とともにある学校づくり」を推進し、ふるさと竹原を支えていこうとする人材や、郷土を想いながら世界で活躍できる人材を育成し、また市民が生涯学習に取り組める機会や学習機会内容の充実を図るため、地域交流センターなどの活用拠点を活用していきます。

29 ページをご覧ください。「企業等との連携強化」です。

こちらでは、施策の共同実施や地域資源の相互利用など、広島広域都市圏や広島中央地域連携中枢都市圏等を構成する周辺市町と連携施策を推進します。また、大学や民間企業が持つ資源やノウハウを活用しながら地域課題の解決及び地域の活性化を図ります。

次のページをご覧ください。「関係人口の創出・拡大」です。

こちらでは、市域を超えて広く竹原のファンを獲得することにより、ふるさと納税の増加や竹原製品の消費拡大、地域の課題解決と魅力づくりにつなげ、地域活力の維持向上を図ります。

次のページをご覧ください。

「まちの魅力向上」です。まずは、「歴史文化を活かしたまちづくりの推進」です。

こちらでは、空き家となった歴史的建造物の積極的な活用や、市民等と協働しながら、歴史的景観の保存、歴史的な町並みや瀬戸内海、山などの自然を活かした竹原らしい魅力ある景観の創出などを行っていきます。

次のページをご覧ください。

「地域資源を生かした観光・交流の更なる推進」です。

この項目では、瀬戸内海を生かした体験メニューなど、新たな観光コンテンツの開発や首都圏などでの PR 活動や、観光活動の展開などを実施していきます。

第 2 期総合戦略のおおまかな説明は以上です。

次のページをご覧ください。35 ページに施策の体系を示しています。

36 ページをご覧ください。「各施策に関連する SDG s の目標」です。

こちらでは、国の基本方針で、総合戦略の新しい視点として示された SDG s を第 2 期総合戦略の施策の方向性と関連づけています。

SDGs につきまして説明しますので、2 ページにお戻りください。

SDGs とは、Sustainable Development Goals の略で、日本語で持続可能な開発目標と訳します。SDGs とは、平成 27 年 9 月の国連サミットで採択された持続可能な開発のための「2030 アジェンダ」で掲載された 2016 年から 2030 年までの国際目標です。持続可能な世界を実現するため 17 のゴール 169 のターゲットから構成されており、地球上に誰一人として取り残さずに

<p>会長</p>	<p>持続可能な開発を進めていくということを誓っています。</p> <p>36 ページにお戻りください。こちらで各施策の方向性に関連する SDGS を載せさせていただいております。</p> <p>事務局からの説明は以上です。</p> <p>ありがとうございます。内容が多岐にわたっておりますので、色々議論しにくいとは思いますが、それぞれの立場から気付き、ご意見等承ればと思います。</p> <p>最初に疑問とか質問ございましたら手を上げていただけましたらと思いますが、よろしいですか。</p> <p>(意見なし)</p> <p>それでは、内容を 2 つに分けて、前半は竹原市人口ビジョンについてご意見をお伺いできればと思います。</p> <p>まだ、どれを採用するかということではなくて、推計の考え方まで呈示されたと受け止めて頂ければと思います。</p> <p>議論の材料提供をします。人口ビジョン資料 1 の 7 ページを見ていただければと思います。</p> <p>年齢別の転入転出の状況がグラフになっています。いずれも動きが目立つのは 20 歳代の人たちで、出ていくのも多いけれど入ってくる人も多いのが一つの着眼点だろうと思います。これをいかに呼び込むか、ということがポイントになると思います。</p> <p>また、10 歳から 19 歳が多くないように見えるのは、住民票ベースで把握した数値なので、住民票を移す手続きをしないまま移動している、という状況も考えられます。その後、20 歳代をいかに確保するかということがポイントだと思えます。</p> <p>12 ページ目、広島県による「人口移動統計調査」で、転入転出の理由が示されています。すべての人に対して調査できているものではないですが、大まかな傾向が見えてくると思います。</p> <p>当市につきましては左から 3 つ目、転勤の動きが随分大きいです。これはおそらく工事関係による転勤も影響していると思いますので、本当の真水部分がどれぐらいかということ把握しておく、その真水部分の転入転出の差をいかに少なくしていくかというのが重要であろうと思います。</p> <p>16～17 ページ目では、産業区分別の構成が示されています。</p> <p>ただこれは就業者ですので、夜間人口が示されているということです。従業者、昼間人口との比較もしておいたほうが良いと思います。</p> <p>先ほど申し上げた特に若い人、20～30 歳代の転入者を呼び込むためには、必ずしも竹原で昼夜間過ごさなくても良いわけです。</p>
-----------	--

夜は竹原で過ごし、昼間はほかの地域で働く、またその逆ということもありえますので、こういった人口移動も少し詳しくみて、特に竹原の場合は昼間と夜の就業構造もみておく必要があるかなという気がしました。

23 ページ目、年齢別の人口構成です。年齢階層別の人口構成ですね。65歳以上人口も、この先は減るとということが推測されています。

余談ですが、毎年この時期に新聞社から何かデータ無いかということで、材料提供を依頼されます。

地方創生に絡んだ情報ということでしたので、第2次の安倍内閣が発足し、2013年から2019年直近の住民基本台帳ベースで年齢別の人口構成についても変化をみたところ、広島県内で増加しているのは、広島、海田、東広島、の4市町だけでした。

また、この中ですべての年齢階層が増加しているのは海田だけになりました。広島市でさえ、高齢者しか増加してないという状況です。それに続くところは全部減少、4市町は全部減少しているのですが、いずれもまだ高齢者人口はプラスなのです。これがなんとか増加しているから全体としての減少率を抑えられているということです。

また、減少率の大きいところから言いますと、安芸太田町、神石高原町では全部の年齢階層で減少しています。そして3番目が竹原市です。

減少率3位竹原、特徴的なことに他の竹原よりかは減少率が少ないところでも65歳以上人口すべての年齢階層減少しているのですが、竹原だけは65歳以上の人口は増加しているのですが、今後、高齢者人口、65歳以上人口が減少局面に入っていくとより人口減少が加速するのではないかとこの恐れがあります。

ですので、総合戦略骨子案とも絡んでくるのですが、かなりポイントを決めて、取組方向を定め、いかに転入を増やすか、ということを取組まなければ今後、人口減少はさらに厳しい局面に入ることが予想されます。

以上、議論への材料提供を踏まえましてなにかお気づきの点ございましたら。

それから24ページ目、男女の就業率があります。特に女性につきましては30代、40代あたりからいわゆるM字カーブ、就業率が下がっているけれども、最近上向いているということは確かに指摘されています。これは国勢調査ベースですので2015年まで表示されていますが、県単位・都道府県別だと2018年くらいまで把握可能だと思います。

ただ上向いているのは確かなのですが、おそらくその大きな影響が2018年の税制改正により、扶養者の特別控除の枠が103万円から150万円まで広げられて、女性の就業、パートの就業者が増えたというのが、大きな要因

	<p>ではないかというように指摘されています。これは喜ばしいことなのですが、一過性のものとなり、持続的な可能性は少ないので、それをいかに維持していくか、ということがそれぞれの地域の課題にもなってくると思います。</p> <p>以上人口ビジョンでなにかお気付きの点はありますでしょうか。</p>
委員	<p>同僚の校長先生とも話したのですがどこも、都市を除いては生徒数の減少に頭を悩まされているということがあります。本当に子供が少なく、ほとんどの校長が頭をかかえているというのが実態です。今までの学校経営といますか色々な活動が近い将来維持できなくなるというようなことがあります。今回お示しいただいた資料の中に資料1・2で説明はされたのですが、資料2の10ページで「自分の住んでいる地域が好きと答えた生徒の割合」をKPIとして挙げられています。県教委が、高校生を対象に生徒質問支持調査、学校質問支持調査を実施しています。平成30年度の結果を見ると、1年生で63.2パーセントが将来身近な地域に貢献したいと思っており、2年生のなるとそれよりも約2パーセント下がるのですが、学校としてはこういったところに何かやはり各方面と協力しながら取り組むことによって、何か貢献できることはないかなということを今考えているところです。なかなか難しいところではあるのですが今現在はこういったところです。</p>
会長	<p>資料1・2を通して順番にご意見いただければと思いますが、いかがでしょうか。</p>
委員	<p>企業の方と話す、人手不足という状況で、雇いたいという思いはあるが募集が集まらないという実情があるようです。</p> <p>福利厚生が充実ですとか、そのような面で我々は企業を支援するのですが、やはり人手不足の原因は、人口がこの地域に少ないところなのだろうと思います。</p> <p>一方、外国人労働者の雇い入れという施策も今色々な企業で出てきますので、今までのこの資料を見ていると外国人の関係というのがちょっとまだよくわからないので、そのあたりまたお示し頂きたいと思っております。以上です。</p>
会長	<p>外国人については、労働力として、というより共生の社会を築こうという趣旨で課題として取り上げられているかと思えます。</p>
委員	<p>10年前、第5次総合計画へ記載されていた推計値が現在値と比較してどうか担当の方へ確認したところ、より厳しくなっているというような返答があり、とても厳しい状況だということを感じています。</p> <p>資料1 竹原市人口ビジョン 23 ページでは、令和12年を超えると、生産年齢人口より65歳以上の高齢人口のほうが多くなると見込まれ、今後、</p>

	<p>高齢人口が過半数を占めていくということが示されています。これは、これから本当に勝負であり、厳しい状況になるという、会長のお話と一致するなど思いながらお話を聞いておりました。</p> <p>(資料1) 11 ページ, 転出地域別を見ると, 東広島市へ転出が多いことは予測できましたが, 一方で例えば広島市からの転入が予想外に多く, それになぜかが気になりました。</p> <p>資料2の5ページ, 「仕事づくり」のKPIに今回「課税状況調べによる市町村民税の納税義務者数」を一つの指標に挙げられています。では納税義務者数が竹原市でどう推移しているか, ということと合わせて, 高齢者が増えてくるということになると, 例えば, 一人当たりの納税義務者の納税されている平均値などを分析してもいいのではないかと思います。</p> <p>高齢者が例えば増えると, 納税者数が増えたとしても数字は減ってくるのだろうか, この辺の見方というのはどういうことになるのか, あるいは若年齢でそこはどうかぜひ分析していただきたいなということを感じました。</p> <p>また, 学校現場において, 働き方改革が求められる中で子どもたちが減り, やるべきことは沢山あるが, その中でどう学校を運営していくか常に議論をしており, 市と同様の課題を抱えていると感じています。</p> <p>今の納税義務者の件いかがでしょう。非常に市にとっては重要な課題なのですが, とりあげた理由など。</p> <p>第2期総合戦略のKPIでは, 毎年PDCAがまわせるように, 1年ごとに確実に客観的な数字が確認できる指標を考え, 設定しました。</p> <p>納税義務者数, はすべての納税義務者を取り上げるわけではなく, 「仕事づくり」の指標ですので, 年金収入により納税義務者となっている方については除こうと考えております。働くことによって所得が生じ納税義務ができた方をKPIに設定しようという考えです。</p> <p>現状の納税義務者数の推移については, 税制改正等で色々税制変わっていく部分もありますが, 税制が一定である, ということを仮定すればこの納税義務者数, 年金収入を除いた納税義務者数は仕事づくり・雇用を示すうえで適切なKPIになると考えて設定をしています。</p> <p>納税義務者数の推移については手元に数字を持っておらず, お答えできません。申し訳ありません。</p> <p>ありがとうございます。避けて通れない問題だと思います。</p> <p>先程のお話によりますとワースト3位, 海田町だけが上がっている, この資料とは別なのですが, 上がっているというのは何か特別な理由があるのですか。</p>
会長	
事務局	
会長 委員	

	<p>人口減少が進んでいる、ということは皆さん解っていて、例えば人口の中でも年齢層でいくと65歳以上の方というのは減っていくあるいは推移して移行していくわけなのですが、今この短期間で人口を増やそうとすると外から入ってくる人を増やすしかないかと。</p> <p>多くの人を感じるように、総人口的には出生率の低下が課題だと思いますので、転入者の増加に着目すると、広島県内でも人口の取り合いになってしまうような印象も受けます。</p> <p>海田町については、おそらく仕事の関係とかもあるのだろうと思います。竹原市では、65歳以上の方で竹原市の賑わいを作ってこられた皆さんが多くいらっしゃると感じていて、今後減っていくということに竹原市民として寂しさを覚えました。</p> <p>竹原に帰ってきたい、ふるさと愛を育てたい、という教育の一貫の延長には、私たち世代の竹原の中の住民が竹原愛をより深めることもおそらく同時に必要だと考えます。観光振興の視点も記載されていますが、そうした外に向けてのアピールと同時に、やはり内部、市民の皆さんの満足度向上に向けた取組や生きがいがづくりを主体的にやる必要があるな、とも感じています。</p> <p>また、今年度に入り、中国新聞で竹原市の記事の取り上げ件数が非常に増えている印象があります。件数を具体的に比較していませんが、これは住民の方々からも意見が上がってしまっていてそういう意味ではいいも悪いも皆さんが竹原を外だけではなくて中で知っていく、感じていく、こういう現状を抱えて活性化していく仕組みをもっと施策へ落とし込んでいけたらいいなと感じました。</p>
委員	<p>資料1の3～15ページにかけて、男女別の年齢別の移動数が示されています。これによると、高齢者の方は比較的安定して竹原市に住まれていると思うのですが、若年層ですね。</p>
会長	<p>就職や通勤、就学するときに転出者が多いようで、学校がないというのはどうしようもないことなのですが、就職の段階で考えると、竹原市に魅力的な就労先がないのかな、と推測できます。その辺りを踏まえて企業誘致ができれば、一気に企業誘致から人口増、という流れにもっていけるのかなと思いました。以上です。</p> <p>ありがとうございます。その他に、また、資料2についての気付きをご紹介したいと思います。</p> <p>最初の1～2ページあたり、趣旨のところは随分解り易くなっているかなと思います。</p> <p>特に市民の方にとってみると、なぜ総合計画があるのになぜこの地方創</p>

生総合戦略が必要なのか？と思われる方もいらっしゃるのですが、文章としての記載はありますが、図を挿入して総合計画との役割分担を示しても良いと思います。あくまで総合計画がベースだけれど、国の地方創生の政策を踏まえて、総合計画の特に人口増、それから地方創生にむけてこういった組み立てをするのが入ると解り易いのかなと思いました。

2 ページ目に国の政策方針があるのですが、これについては先程ご紹介がありましたが、12月20日の国における閣議決定の表現と少し異なりますので、ご確認頂くと共に整理して頂ければと思います。

5 ページ目、今の若者の絡んだところなのですが5 ページ目の本文下から3行目「転出を抑制する」、確かにそうなのです。ただし、若者についてはあえて、例えば地域内の大学や専門学校に行く、というところまであえて制限する必要はないのでは。

むしろここは、20代後半30代ぐらいまでの人は転出して、何年か地域外で修業して一人に一芸一能力を身に着けて帰ってきてもらう、そういった仕組みが可能かどうか考えても良いと思います。

一つの案として、総合計画における施策事業との調整をとらなくてはいけません。例えば奨学金の返済を免除する、20代後半30代に帰ってくれば、あるいは一人一芸一修業してくれば一能力身に着けてくるなどの条件付きで免除してあげる、というような仕組みを検討してもいいのではないかという気がいたしました。

それから、その後の「仕事づくり」のところです。

先程委員からもご指摘のあった通り、企業誘致は重要です。

ただ企業誘致そのものだと今は、極端に言えばカンボジアやミャンマーなどでも取り組んでいます。よって、むしろ先程申し上げた若者、一人一芸一能力を身に着けて帰ってきた方々が活躍するために、何か新しい産業を興す。例えば伝統工芸と組み合わせる、デザインやマーケティングと組み合わせる。それからパティシエとかシェフとか料理レストランを活かしていく観光のプロモーションができる、そのような新しいサービス産業を興すことを支援する、若者道場のような仕組みも必要という気がしました。

企業誘致も重要なのですが、そういう若者、地域外から来た人を特に地域サービス業を中心に支援していくというような取組も必要かなと思いました。

それからあと小さなことなのですが、13 ページ目本文のところ、最初の4行ぐらいがなにか課題を述べているのか何なのかちょっとわかり難いところがありますので、文章を工夫していただけたらと思います。

13 ページ目の下から14 ページ目、防災へのことなのですが、いきなり地

	<p>域関係機関連携協力について記載がありますが、まずは自助、共助的なものを打ち出して、その後このような消防あるいは関係機関とのあるいは地域との連携を入れる必要があるのではないかと思います。</p> <p>16 ページ目、婚姻率を KPI にしているのですが、これは案外婚姻件数のほうが解り易いような気がします。100 人あたり 1000 人あたり率よりも件数を目標にしたほうが取り組みやすく、分かりやすいような気がいたしました。</p> <p>22 ページ目、COPD のことが記載されていますので、内容について脚注を入れると解りやすいと思います。</p> <p>32 ページ目、町並み保存地区と周辺との関係です。</p> <p>これ総合計画に記載がありましたでしょうか。確かに重要なことなので周辺地区と含めて密接な整備を行っていくのはやはり今の時期の非常に重要な課題だろうと思いました。</p> <p>最後に SDGs との対応があるのですがあまり全部ださなくても特徴のところだけ竹原はこれですというのを打ち出してなにかアピールできるかなという気がしましたので、これは付け足したら何かおかしいのですが、なにかちょっと最後の方で工夫されてもいいかなというふうに思いました。以上材料提供ですが、今のようなことを聞かれまして皆様からご意見ありますでしょうか。</p>
委員	<p>仕事づくりのところで新しい産業という話がありましたけれども、資料 1 の 17 ページ産業別のところで、情報通信業が極めて少ないところが何か竹原市として増やしたいなと思われているのかどうかをと、お伺いできればと思います。</p>
会長 委員	<p>市の方で何か取り組みなどありましたら。</p> <p>特にこう情報通信業に限らず、今市内で企業誘致を行うにあたり、団地の分譲率が進んできて用地がだんだん少なくなっている状況にあります。広島県全体も同じように工業団地というのが少なくなっているという状況にありますので、本社機能ですとか、オフィスで誘致しようという動きが進んできておりますので、竹原市としてもそういったオフィスの誘致というのを進めていくべきだろうということで、今後そういうことをしたいと考えています。そういった中では今言われた情報通信業、IT 関連と、そうした環境が整ってさえいれば特に大都市にいらなくてもいいとそういった情報通信業というのはターゲットになるのではないかというふうに思っております。まだちょっと漠然としておりますが、そういう方向性で取り込みたいという思いではあります。</p>
委員	<p>普通我々が保護者と話す際、多くの保護者が、子どもたちの将来のことを</p>

<p>会長 委員</p>	<p>考えると、地元へ帰ってこなくてもいい、家で商売をされている方は自分の代で終わりだといわれる方が多くて、子供が出ていくことを前提に話される方が多い印象です。しかし、例えば後継ぎ、いわゆるU・I・Jターンの中に入るのかなと思うのですが、後継ぎになる子どもたちが帰ってきやすいような、親が店をたたむとか、仕事を終わるとかいうのではなくて、次の代に引き継いで続けていけるということになればいいと少し思ったのですが、例えば帰ってきて、それを続けてその店をリニューアルするために補助金が支給されるとか、そのような制度があるといいのでは、と思います。</p> <p>そのような制度があれば、ふるさとへ帰り、親の後を継いでみようかという人が出てくるのでは、と思ったりしました。</p> <p>もう一つは、地域を支える人というところと、これはPTAの皆さん、保護者の方々と話といますか、役員と話しをしたのですが、いわゆる地域行事に学校として協力することが多いのですが、結構大変だと、地域の皆さんとやるのは大変だという思いを持っておられます。</p> <p>というのは、協力はしたいけれど、後々地域の何かのあれに引き込まれては大変だとかそういう思いを持っておられる。正直なところだと思います。</p> <p>自分ももちろん大変だと思うのです。</p> <p>だからそういう意味ではこの後、女性会にとかいうと大変だとかそういうことをみんな思っていて正直なところだと思うのですが、地域をますます支える人がいない、後継者がいないというのは正直、感じています。今もコミュニティ・スクール事業を進めていますけれども、その場に来ていただく委員の方々が色んな組織、地域の組織の長やリーダーに集まっただけでいるのですが、どんどん高齢化していきます。構成する委員が高齢化しており、その後を継ぐ人がいるのか、正直心配をしています。そのような中で我々世代が、地域活動へ参画できるのかどうか、あるいはもっと若い世代の人たちが興味を持って参画できるのか、非常に厳しい状況だと思います。ただPTAのエネルギーというのはすごいものがあるので、そのエネルギーを地域のほうに回していくような何か策といますか、働きかけといますかそういうのがないと、そこで切れてしまうのではないかと考えています。</p> <p>次の方、何かありましたら。</p> <p>学校現場からはお願いということに関わってくるのですが、資料2の19ページ枠の中の上から3つ目、「異年齢交流」や「子育て支援センター」というようなもの、それから26ページやはり表の上から4つ目、「学びの成果を地域社会やまちづくりなどに還元」ということで学校と地域の連携強化というように関係してくるのですが、実は生徒自身、本校は高校</p>
------------------	---

	<p>生なので、あまり引き込まれたくないという距離感が実はあります。</p> <p>ただ、興味や関心があって地域の文化を知りたいというものとそういったものをセンター的なもので調整をしていただけるような仕組みや拠点があればとは感じます。</p> <p>実は働き方改革とも学校ではリンクするのですが、その大きな取組に部活動指導などがあります。先進的な事例、昨日もちょっと聞きましたら勤務時間以降の部活動からは一切教員は手を引くと、その代わり地域社会のほうで社会スポーツの方で指導者が入れ替わる。土日もやっていたのをやめてそういった社会スポーツの観点から指導者にお任せするというようなことがあり、そのような連携がどんどん出来ることが望ましいと思っています。</p> <p>竹原市内の場合は小規模校が多いです。また、来年度から竹原市で順次学校運営協議会を発足させ、コミュニティ・スクール制度が始まります。</p> <p>また、公立高校では今年から全校がコミュニティ・スクール制度を導入しております。それぞれの学校の学校運営協議会が連携しやすいようなシステムができればいいと思っています。</p>
会長	<p>ありがとうございます。では、次の方、お願いします。次の方、なにか先ほどの事業承継の絡みなどでもいいのですが。</p>
委員	<p>先ほど、家業を継ぐことについて意見があったのですが、やはり、戻りたいと思われるまちづくりというのが、まちづくりもそうですし、アイデンティティなど、地元のコミュニティがあって楽しいと思われるようなまちづくりが、竹原へ帰ってきてもらうためには重要なのかなと思いましたが、そこを、感想としてお話をさせていただきました。</p>
会長	<p>ほかになにか。</p> <p>人口ビジョンはまだ考え方を示しており、数値そのものが出ておりません。</p> <p>もう一つ総合戦略の骨子につきまして、3つの社会減の抑制、自然減の抑制、そしてトータルとして賑わいの創出ということで柱ごとに取組が出てまいりました。またこの数値目標、KPIの設定とはまた今後の課題なのですが、今日の議論の中でいくつか重要なヒントができたと思います。</p> <p>ほかにどなたか。またこれを踏まえて今後次の最終案に向けて仕上げていただければと思いますが、今後のスケジュール等は。</p>
事務局	<p>今後のスケジュールについてご説明申し上げたいと思います。今年中にパブリックコメント募集をしようと、そのように考えております。</p> <p>基本的にはこの状態で、多少修正を加えるかもしれませんが、パブリックコメントを約1か月間、だいたい1月終わりぐらいまで募集し、その後ま</p>

<p>会長</p>	<p>たこの推進会議のほうを開かせていただこうと思います。</p> <p>その時に合わせて、この総合戦略の考え方に基づいて実施する事業については、5年計画の1年目である令和2年度にどのような事業に取り組むかという部分についてご説明したいと思っております。</p> <p>次回会議については、また日程調整をさせていただきますのでよろしくお願いいたします。</p>
<p>事務局</p>	<p>わかりました。今後の方針等なにかご意見ありますでしょうか。よろしいですか。そしたら少し早いのですがこれで終わってよろしいですか。なにかこの際というかたいらっしゃいましたら、では事務局のほうにお戻しいたします。</p>
<p>市長</p>	<p>さまざまなお意見をいただきました。どうもありがとうございました。最後に本日の会議を踏まえまして市長のほうから一言よろしく願いいたします。</p>
<p>事務局</p>	<p>(挨拶)</p> <p>それでは以上をもちまして第3回竹原市地方創生推進会議を終了したいと思います。どうもありがとうございました。</p>